

文化財 ニュース

21 Summer 2020

有形文化財(古文書)

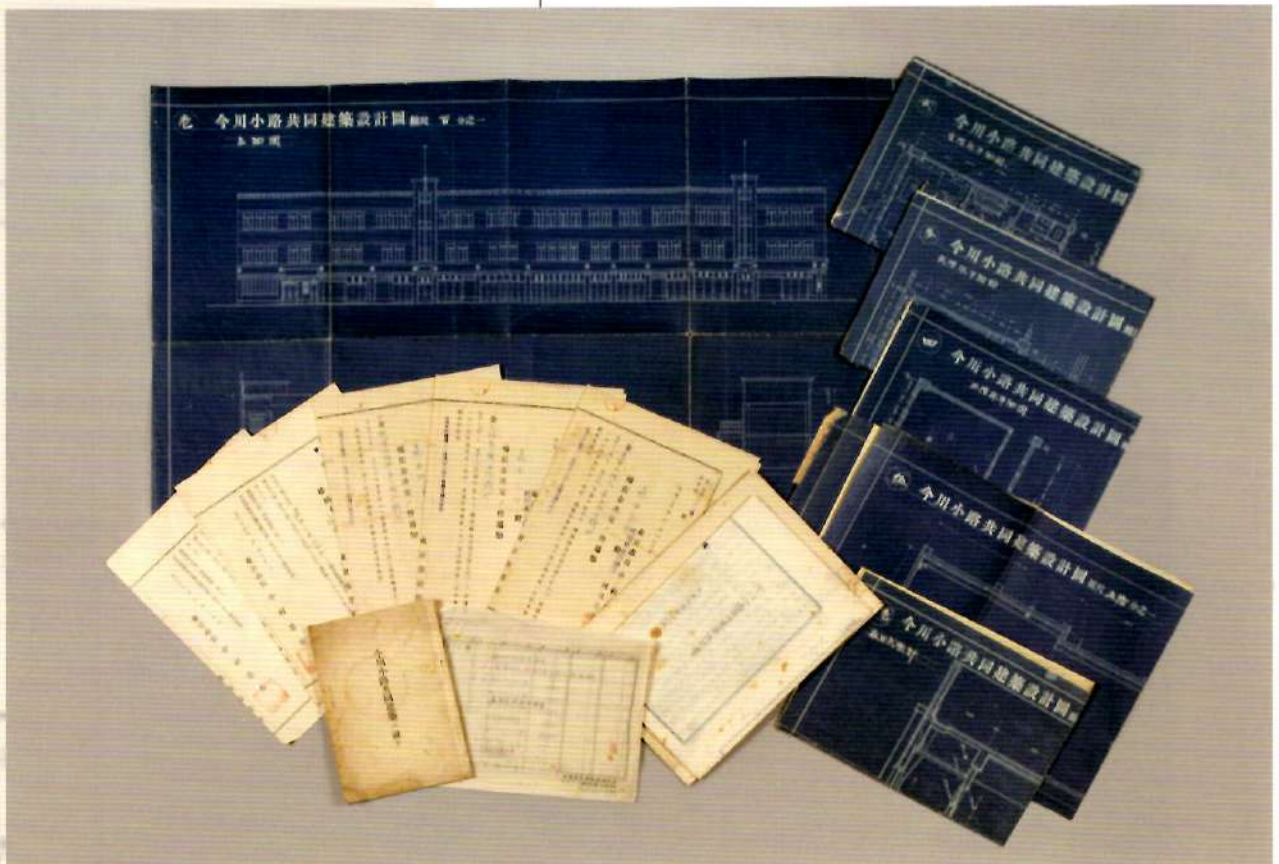
今川小路共同建築関係文書 33点

所蔵：千代田区教育委員会

令和2年4月1日付けで新たに「今川小路共同建築関係文書」が区指定文化財になりました。この文化財については、区が寄贈を受けた平成29年に、一度文化財ニュースでも取り上げています(2017年発行第13号)。本号では、改めて指定文化財としての資料的価値を中心に紹介します。

※「共同建築」について詳しく紹介している文化財ニュース13号も、あわせてご覧ください。

13号の記事はこちら



今川小路共同建築関係文書

◇指定資料の概要について

今回の指定資料は、もともと平成29年に、今川小路共同建築にゆかりある森田千秋氏から寄贈を受けた13点の資料が始まりです。その後文化財指定に関わる

整理作業の過程で、追加で22点の資料を寄贈頂き、計35点の資料群となりました。その中から、今川小路共同建築関係文書として33点が、今回の指定となりました。



解体前の今川小路共同建築 千代田区広報広聴課提供（平成23年12月撮影）

今川小路共同建築は、かつて神田神保町三丁目に建設された震災復興建築のひとつです。震災以来の歴史を持つ貴重な建造物でしたが、老朽化により平成24年2月に解体されました。跡地には現在専修大学の新しい校舎（140年記念館）が建っています。



現在の跡地 専修大学提供（令和2年6月撮影）

33点の資料を内容によって分類すると、次の3つになります。

- ① 区画整理に伴う立ち退き移転に関する資料
- ② 今川小路共同建築の建設に関する資料
- ③ 今川小路共同建築後の報告書および支払いに関する資料

平成29年の寄贈時は、主に②のうち図面資料が中心でしたが、令和元年は①③と②の契約書類関係の資料が追加寄贈されました。これにより、共同建築本体の設計に加え、震災後の区画整理など建築に至るまでの経過、建築に使用した部材や完成後の建築費用の支払いの内容など、今川小路共同建築の建設前後を含む詳細な状況がわかってきました。

◇指定理由

今回指定となった理由は主に2つです。

1つ目は、関東大震災復興事業に関わる区内の歴史を示す資料としての重要性です。従来震災復興に関わる資料は、国や都など行政機関に保管されたものが基本です。しかし、この資料は区民側に残されたものとして、共同建築を事例に区内の復興の経過を明らかにする資料群として重要になります。

2つ目は、「共同建築」に関する研究資料としての希少的価値です。東京から神奈川にかけて71例が確認されている共同建築ですが、これまでその実態を示す資料は確認されてきませんでした。本資料のようにまともに残るのは珍しいことで、今後の共同建築に関する研究の進展に期待が高まります。

2023年には関東大震災から100年という節目の年を迎えます。「今川

小路共同建築関係文書」は、震災に直面した当時の区の姿を私たちに伝えてくれる貴重な資料として、将来に残すべき大切な文化財のひとつです。

（学芸員 山田将之）

※主要参考文献：栢木まどか、伊藤裕久「東京の近代における防火地区の変遷と震災復興期の共同建築に関する研究」（『都市計画論文集』No.43-2、2008）

現在の神田神保町三丁目周辺では、震災から2年半過ぎた大正15年（1926）3月から区画整理に伴う移転や補償の動きが本格化しました。



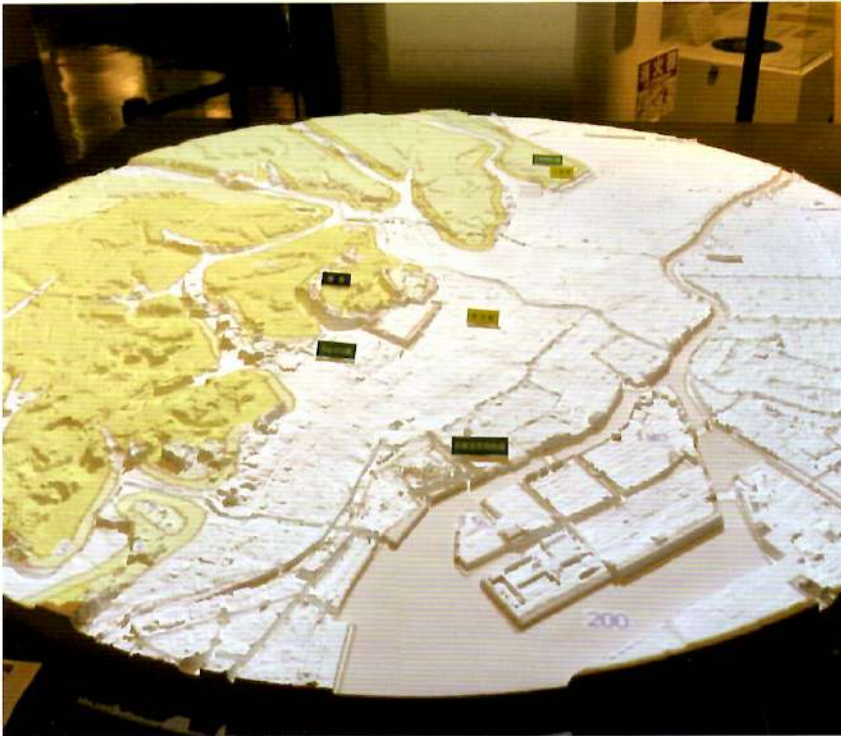
移転命令書（大正15年3月25日／「今川小路共同建築関係文書」）

プロジェクションマッピング型地形模型の導入

令和2年3月に、日比谷図書文化館1階の常設展示室「V. まちの歴史」コーナーの一角を改修し、プロジェクションマッピングによる地形展示を導入しました。これまでは千代田まち歩きマップを展示し、まちの見どころを平面で紹介していましたが、新しい展示では立体模型に画像を投影することで、まちの地形と歴史を立体的に捉えることができます。

地質図と近代から現代にかけて作成された地図、合計7つのコンテンツの中から、今回は2つを紹介します。

(学芸員 篠原杏奈)



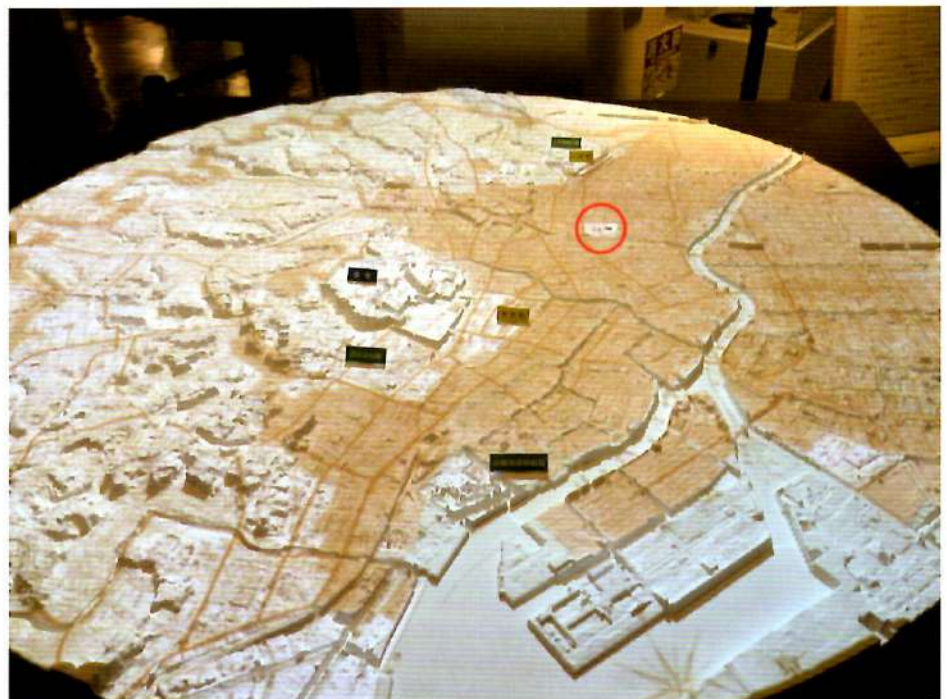
地質図 (1/20万シームレス地質図)

産業技術総合研究所提供

千代田区の東半分が含まれる、最も色が薄く塗られている地域は、後期更新世から完新世の海成または非海成堆積岩類で、約1万8000年前から現在までに形成された地層です。一方、千代田区の西半分は、後期更新世の中段段丘堆積物で、約15万年前～7万年前に形成された段丘層です。このような地層の形成時期の違いが、坂の多い千代田区の地形を生み出しました。

「東京大震災火災地図 大正12年」 市政専門図書館所蔵

大規模な火災を伴った関東大震災で、罹災した地域を赤く表示した地図です。町民の防火活動により、奇跡的に火災をまぬがれた神田和泉町・佐久間町一帯は、写真右上の白い四角として残っており、一目でわかります。上の地質図と見比べてみると、東京の低地部分で特に大きな被害が出たことがわかります。



新しい文化財マップが出来ました

『文化財保護調査員が勝手に選んだ千代田区の歴史・文化30選』

令和元年度、区内の歴史・文化資源を紹介する新しいマップを製作しました。製作を担当したのは、平成30年、令和元年度の千代田区文化財保護調査員の皆さまです。

文化財保護調査員とは、区の学芸員らと協力しながら、区内の説明板のパトロールや文化財の調査研究など、文化財保護・活用の啓発に取り組む方々です。任期は2年で、10名の調査員が活躍しています。

今回のマップは、調査員が「区の歴史・

文化の魅力をもっと多くの方に伝えたい」という思いから製作したものです。独自の目線で選んだ区内の30の歴史・文化資源の中には、これまであまり知られていないものも含まれており、沢山の発見が期待できる内容になっています。

(学芸員 山田将之)



表裏で麹町地域と神田地域に分けて紹介しています。

マップは現在、日比谷図書文化館をはじめ、区役所、図書館など区内の公共施設で配布をしています。マップを片手に区内を散策していただき、千代田区の新たな魅力発見の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。(※)

※散策の際は新型コロナウイルス感染拡大予防対策にご配慮下さい。



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分
 東京メトロ ●千代田線
 ●日比谷線 「霞ヶ関駅」徒歩5分
 ●丸の内線

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時

土 10時～19時

日・祝 10時～17時

文化財事務局 月～金 10時～18時

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第21号 (3,000部)

発行日 令和2年7月10日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4

TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361

HP:http://eco-chiyoda.jp

e-mail:bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp

印刷 株式会社報光社